

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200014		
法人名	医療法人 森医院		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岡山県赤磐市多賀1225-1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との連携により、本人、家族の希望に応じて看取りを行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年3月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットあり両管理者共信頼が厚く、職員の勤務年数も長く看取りの経験もあり、緊急時も落ち着いて行動できるように普段から訓練を行っています。持ち回りで、それぞれ係を決め工夫しながらお互い協力し、認め合って達成していく事で責任ある現場運営に全職員で取り組んでいる様子が窺えました。入居者と馴染みの関係も出来ており、事業所全体、気持のよい雰囲気づくりが出来ています。母体が病院なので医療連携も良くとれており、看護師並びに医師も必要時にはすぐに駆け付ける体制が出来ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内、業務日誌に添付し共有している	各ユニットに掲示し、理念の共有に努めています。各々職員が理解を深めながら協力しあって実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	溝掃除、祭り等参加しホーム行事には運営推進会議の方に参加していただいている。地域保育園、園児に来所していただき交流している	年2回町内の大掃除に合わせ、事業所の周りの溝や道など掃除しています。地域の夏祭りへの参加、又、事業所の夕涼み会への地域の方の参加があります。幼稚園児とのイモ掘りは毎年の恒例行事になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で説明し、支援について報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状、事例、行事報告している。問題になっていることを相談し、制度については尋ねる機会となっている	区長、地域包括支援センターの担当者、民生委員又、駐在所の警察官が参加することもあります。会議での意見などサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば市役所へ連絡し尋ねている	介護保険制度上で分からないことや疑問に思ったことを介護保険課の担当者に相談してすぐに回答を貰っています。入居可能になったことを伝えて紹介してもらう事もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず拘束をする場合があり、家族へ説明し同意を得ている。玄関、フロアーの入り口は安全を考え施錠している	身体拘束は行わないことを基本にしています。現在は入居者全員が離床が可能なので日中は見守りで自由に過ごしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣い、日々の生活の中で注意し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はないがなんとなく理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族に対し要望をたずねている。現状のままでという声が多い	数名の入居者は思いを口に出せるが他の入居者は言葉に出しにくいので数年の間から感じ取るようにしています。面会時、家族に声掛けし意見や要望をたずね運営に反映する様努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、全体会議で話しをし報告している。よい意見は取り入れ、取り組むようにしている	毎月全職員で介護の方法について会議を行っており、話し易い雰囲気作りに配慮し活発な意見交換が行われています。職員からの意見やアイデア等、必要と思われる事項について話し合い運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いたり、ケア会議等で内部研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の交流があり情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時要望を尋ね、安心して生活してもらえるように耳を傾けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を聞き申し送り、要望に添ったケアができるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、十分に説明している。又見学時には他のサービスの説明をすることがある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長としてとらえ、出来ることは行っていただけのように共に生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援は必要不可欠なので生活状況を伝え、ホームでの状況を知ってもらえるように連絡をとっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居すると途切れてしまうが、時々友人・知人の面会もある。事前に家族の方に面会の有無をたずねるようにしている	知人の面会は数か月に1回程度あります。理髪店を経営している娘さんが面会時に(入居者本人)散髪をしてくれています。開所当時から入居している方同士と職員が馴染みの関係になっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席を決めたり、同じ空間で過ごし声かけしながら共通点になるであろう話題を持ちかけ会話につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、連絡あれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で聞き出し、対応を柔軟にしケア会議で議題にしている。困難な場合も声かけし負担なく生活してもらるように努めている	入居者と職員の馴染みの関係に努めており入居者一人ひとりと目線を合わせ、意向を汲み取り自己決定できる力が発揮できるような関わりを大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし方をするのはなかなか難しいが生活しやすい環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、観察で把握し出来ることを継続していけるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望を反映しながら計画作成している。ケア会議で話しをし、各担当者にも参加してもらっている	家族の意向は必ず確認しています。毎月課題のある入居者の介護計画は職員全員で見直し現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に細かく記録していき申し送り共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で考えられるニーズを話しあい、経過、かかわり方を考え取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の時にボランティアの導入をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の症状に応じて家族の協力を得ながら外来受診している。かかりつけ医に往診してもらい連携している	隔週でユニット毎に内科の往診があり何かあればユニットに関係なく診てもらっています。皮膚科や専門医の受診も家族が付き添いが出来ない時は職員が同行します。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば連絡し、往診以外にも週1回看護師の訪問時相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、医療機関に情報提供し、家族の方に状態確認しながら対応している。退院時には状態確認を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時説明し、家族の希望を聞きホームで出来ることを説明する。主治医に連絡し支援に努めている	ほとんどの職員が看取りを経験しており、家族の協力も得ながら看取った経緯もあります。医師・看護師の協力もありチームで支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、ケア会議で確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回様々な想定をして避難訓練している。地域に協力依頼できるように市役所、区長にも連絡網に入ってもらっている	夜間想定訓練も職員全員行っています。職員は全員緊急時の手順を理解できています。2階からの避難経路は勝手口からの野外階段と通常の階段2か所を使用しています。	実際に災害が起きたときは地域の方の協力が不可欠です。運営推進会議などを通して地域との協力体制に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に応じた声かけの仕方に気をつけ、わかりやすい声かけで対応している	一人ひとりそれぞれ、わかりやすい呼び名で声掛けし、言葉のトーンや内容に気を付けてなじみのある言葉を使うように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い、希望など自己決定できるように声かけしている。入居者の言葉を引き出せるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースにあわせ行うように努めているが、決定できない方が多くなってきているので負担なく生活してもらえるように支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪などで顔ぞりしてもらい、衣類については家族と相談しながら管理している。気に入った衣類を着てもらえるように心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態に応じて提供して。出来ることを行ってもらっている	家庭的な献立で季節の物を取り入れながら、それぞれ出来る事を手伝ってもらい、手作りの食事をみんなでいただいています。又、おやつ作りや夏は夕涼みを兼ねて裏の畑で採れた野菜を使った料理を外で食べることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個々に応じて提供している。食事以外の水分にも心がけ支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、個々に応じた口腔ケア用品を使用している。歯科往診に来てもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し把握している。おむつを使用している方もいるが、日中はトイレ誘導しトイレでの排泄を支援している	排泄援助は一人ひとり違うのでその方にあった方法を行っています。退院してきたときはおしめを使用していた方も声掛けし、トイレでの排泄を促し自立支援に努めています(日中は紙パンツで過ごすことが出来るようになり失禁も無くなりました)。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアビクス、体操を取り入れ、排便コントロールしながら取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっており、入浴内容は個々に添って出来るように努めている。部分浴を取り入れている	季節に合わせて、ゆず風呂や菖蒲湯など楽しんで入浴出来るよう支援しています。入浴拒否をする方にはその方にあった言葉掛けや誘導で対応します。他の入居者も声掛けをしてくれます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ臥床時間をつくっている。「静」と「動」のサイクルがまわるように昼夜逆転を防げるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設管理しており、内服については申し送り共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中でくみ取り、出来ることをして頂くことで役割等を持った生活を送って頂けるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で外出をもうけたり、家族の協力を得ながら外出援助を行っている。季節によって散歩、戸外での食事、おやつ摂取を取り入れている	気候に合わせて畑の野菜作りや草取りなど又、ドライブで湯郷温泉の足湯に出掛けたり、四季折々の外出、家族との一泊旅行など戸外に出掛けられるよう、日頃から外出支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお小遣い管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に応じて対応している。書くことができる方には葉書を書いてもらうことがある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の壁飾りを入居者と共に作成し雰囲気づくりをしている。温度、湿度に気をつけ過ごしてもらうようにしている	季節ごとに飾りつけやお花、置物を替え生活感や季節感を採り入れた共同空間づくりがされています。またトイレ、浴室は常に清潔を保てるように気を付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、入居者同士会話ができるように過ごして頂いている。個々に応じて居室、ホールなどで過ごして頂くようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険でない限り、写真を貼ったり使い慣れたものを使ってもらえるようにしている	入居者が大切に思うものは基本規制なく持ち込んでいます。仏壇を持ち込んでいる方もいました。居室はあまり物が多くならないようにして入居者が自分で管理できるように見て判る工夫が窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にまた出来ることが継続していけるように、声かけし空間に場所の名前を記しわかりやすくしている		